

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人岩手県文化振興事業団	
施 設 名	岩手県民会館	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,305	(千円)
公 演 事 業	6,900	(千円)
人 材 養 成 事 業	809	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,596	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわてJAZZ 2018	平成30年9月9日	出演者：ボブ・ジェームス・トリオ（ボブ・ジェームス/鈴木良雄/奥平真吾）他	目標値	1,267
		大ホール		実績値	816
2	第15回「岩手の民謡をたずねて」	平成31年1月11日	出演者：＜唄＞菊池マセ、千葉栄人 他	目標値	875
		大ホール		実績値	629
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,142
				実績値	1,445

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オーケストラ育成事業 「いわてジュニア・オーケストラ・サミット」	平成31年2月10日	出演：もりおかジュニアオーケストラ、奥州ジュニアオーケストラ スクール 他	目標値	786
		大ホール		実績値	201
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	786
				実績値	201

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オーストラリアの音楽家による震災復興支援・国際交流事業	平成30年9月4日～5日	出演：オーストラリアの音楽家/ロバート・パーク (Tsax)、アーロン・チューライ (B) 他	目標値	150
		釜石市立釜石中学校体育館 他		実績値	690
2	第4回「いわて吹奏楽祭」	平成31年1月27日	出演：習志野市立習志野高等学校、北斗市立上磯中学校 他	目標値	1,450
		大ホール		実績値	1,765
3	ざ・CLASSIC 2019	平成31年2月17日	出演：佐藤彦大 (ピアノ/盛岡市出身)、佐々木駿 (トランペット/盛岡市出身) 他	目標値	300
		中ホール		実績値	373
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,900
				実績値	2,828

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

岩手県民会館は、県民が“文化芸術に触れ”“文化芸術に親しみ”“文化芸術に支えられ”“文化芸術を支える”ことを社会的役割として本事業に取り組んだ。その社会的役割と地域特性から4つのミッションを掲げ、公演事業では「いわてJAZZ 2018」「第15回 岩手の民謡をたずねて」、人材養成事業ではオーケストラ育成事業「いわてジュニアオーケストラ・サミット」、普及啓発事業では「オーストラリアの音楽家による震災復興支援・国際交流事業」「第4回 いわて吹奏楽祭」「ざ・CLASSIC 2019」を実施した。事業実施時にとったアンケートの集計からもわかるように、本事業の評価は高かったが、出演者の減少や、演奏家に直接交渉したことによる出演料の減額などにより事業費の変更が生じ、変更申請することとなった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本事業では、公演事業においては県民が首都圏でしか鑑賞できないような演奏家の演奏に触れられ、人材養成事業においては地域を超えた「音」の交流が生まれ、普及啓発事業では「心の復興」につながると共に、演奏家の技術向上や会館スタッフの育成が図られた。このことから、本事業実施以降もこれらの意義が継続していくと考えられる。

・公演事業⇒文化的意義、経済的意義

新演出による公演内容の充実が図られた。地方都市では招聘することが難しい演奏家の出演が可能となり、更には安価な入場料で提供できることから、県民が実演芸術に触れる機会が増えた。

・人材養成事業⇒社会的意義

将来の岩手の音楽文化を担う子供たちが、他の地域で音楽活動をする同世代の子供たちと交流し、音楽の素晴らしさを実感することができた。地域を越えた「音楽のつながり」によって、生涯にわたり音楽に親しむ県民を増やし、岩手のクラシック音楽の発展・向上が図られた。

・普及啓発事業⇒文化的意義、社会的意義

「オーストラリアの音楽家による震災復興支援・国際交流事業」「第4回いわて吹奏楽祭」では、次代を担う若者たちが演奏を通じて交流を深めることで、震災からの復興を目指す岩手の大きな糧になった。また、「ざ・CLASSIC 2019」は、公演を通して演奏家の技術向上や会館スタッフの育成が図られた。こうした取り組みにより、県内から演奏家を輩出することで音楽文化の振興につながっている。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

本事業での入場者数・参加者数の目標は、公演事業が1,774人、人材養成事業が559人、普及啓発事業が2,449人の合計4,782人である。これに対し結果は、公演事業が1,445人、人材養成事業が201人、普及啓発事業が2,828人の合計4,474人だった。公演事業は目標に対し81.5%、人材養成事業は目標に対し40%、普及啓発事業は目標に対し115.5%、入場者数・参加者数の目標に対しては93.6%だったことから目標未達である。

目標未達の要因としては、演奏家の確定や演奏曲目の決定が遅れたことで広報・宣伝等の情報発信が遅れたことが挙げられる。また、初めて組む音楽事務所の座組みでの公演や、出演予定者からの急な出演取りやめなども目標未達につながったと考えられる。

国庫補助金算入後の収益率の目標は、公演事業が83.5%、人材養成事業が92.3%、普及啓発事業が88.9%である。これに対して収益率の結果は、公演事業が85.9%、人材養成事業が61.3%、普及啓発事業が97.9%だった。なお、本事業における収益率は81.7%で、目標から-6.5ポイント下回った。出演料の交渉等を行い、事業をコンパクトにしたにもかかわらず、入場者数・参加者数の目標未達から自己負担金増につながり、苦しい事業運営となった。

また、本事業におけるアンケートのQ3「公演の内容はいかがでしたか」の問いに、とても良かった74.1%、良かった22.1%という回答を得ていることから、入場者・参加者の内容に対する評価は高かった。アンケートによる事業評価目標は達成しているだけに、本事業に関する広報・宣伝不足が徹底できず、目標未達になったことが悔やまれる。

※資料1～3

※資料4

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対しては、アンケート結果に反映されているように、「公演にいらしたきっかけは何ですか」の問いに「出演者・内容が好き」と61.5%回答し、「公演の内容はいかがでしたか」の問いに「とても良かった・良かった」と96.2%回答するなど、本事業への入場者・参加者における評価は高かった。事業期間は適切であったが、有効性で述べたように演奏家の選定などの遅れが入場者数・参加者数、収益率ともに目標未達であることから、計画通りに進まなかったと言える。事業費は概ね出演料の交渉などを行ったことで、コンパクトに実施できたため適切であったと言えるが、演奏家の選定などが遅れたため、計画通りに進まなかった。

#### ・公演事業

事業期間は適切であったが、演奏家の確定や演奏曲目の決定が遅れたため、広報・宣伝等の情報発信が遅れ、入場者数・参加者数の目標未達につながった。演奏者選定期間が適切ではなかったため、計画通りに進まなかった。

事業費は適切であった。出演者の減少や東京から参加するスタッフの増加などにより、当初の予算計画から変更が生じたが、収益率が目標に達していたため適切であった。

#### ・人材養成事業

事業期間は適切であったが、演奏団体の決定が遅れたため、広報・宣伝等の情報発信が遅れ、入場者数・参加者数の目標未達につながったことは計画通り進まなかったと言える。

事業費は、県内ジュニアオーケストラの演奏に特化し、県外のジュニアオーケストラ招致を行わず経費を削減したが、収益率が目標未達だったため適切ではなかった。当初の予算計画から変更が生じた。

#### ・普及啓発事業

事業期間は適切であった。コンクールの結果などにより、演奏者や演奏団体の決定は若干遅れたものの、入場者数・参加者数の目標を達成できたため、計画も適切であった。

事業費は収益率が目標に達していたため適切であったが、演奏者や演奏団体と交渉し出演料を減額するなど、全体的に予算計画から変更が生じた。

※資料1～3

※資料4

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

本事業では4つのミッションを掲げ、アンケートの回答により文化拠点としての機能が発揮できたかを検証した。「出演者・内容が好き」との回答が61.5%、公演内容が「とても良かった・良かった」との回答が96.2%、入場者・参加者の年齢割合が小中高生20.8%、岩手県内からの入場者・参加者割合が95.6%であったことから、文化拠点としての機能を最大限発揮する事業であった。

① 優れた文化芸術に触れる機会を提供ができた

⇒アンケート2「公演にいらしたきっかけは何ですか」の問いに、出演者が好き 31.3%、内容が好き 30.2%という回答だった。このことから、優れた文化芸術に触れる機会を提供することができたといえる。

② 文化芸術の魅力を効果的に発信ができた

⇒アンケート3「公演の内容はいかがでしたか」の問いに、とても良かった 74.1%、良かった 22.1%という回答だった。入場者・参加者から高評価を得ていることから、文化芸術の魅力を発信することができたといえる。

③ 文化芸術活動を行う人材の育成ができた。

⇒アンケート7「あなたの年齢」の問いに、小中高生合計 20.8%と回答があった。小中高生の参加が他公演に比べ多かったことから、これからの岩手県における文化芸術活動を支える若者の育成につながった。

④ 文化芸術振興の拠点機能の発揮できた

⇒アンケート8「あなたの住所」の問いに、盛岡市 55.8%、県内（盛岡市近郊以外） 24.8%、盛岡市近郊 14.9%という回答だった。県外の割合が4.4%と低いことから、県内の文化芸術振興の拠点として機能した。

※資料4

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

事業ごとに検証したところ、演奏家や演奏団体のコンクールの結果や活動の広がりなどからも、本事業実施が地域の実演芸術の振興、地域の文化芸術の発展につながっていることがわかる。

#### ・公演事業

「いわてJAZZ 2018」公演は、アンケート結果から「とても良かった・よかった」との高評価が95%を占めた。地方で一流アーティストの音楽を聴くことができる喜びや、県内のビッグバンドやアマチュア演奏家に対する応援は、岩手県らしい独創性のある音楽文化につながっている。

「第15回 岩手の民謡をたずねて」公演は、全国で活躍する民謡歌手を招聘することが可能となり、県内演奏家はこの交流を通じて切磋琢磨しながら演奏技術や知識の向上につながった。そのため、日本民謡協会民謡民舞全国大会などで毎年グランプリ受賞者を輩出している。また、岩手を代表する民謡歌手が出演し、岩手の民謡をベテランから若手へと歌い継ぐこと企画となっている。

#### ・人材養成事業

県内に点在する弦楽団体が一堂に会し、演奏技術の向上だけではなく、交流から生まれる“岩手らしい音”を創発することができた。また、「いわてフィルハーモニー・オーケストラ」と共催することで、団員の音楽や演奏に対する姿勢も学ぶよい機会となった。

#### ・普及啓発事業

「オーストラリアの音楽家による震災復興支援・国際交流事業」では、オーストラリアの人々、文化、音楽に触れたことのない生徒たちがほとんどであったが、本事業を通じてオーストラリアの家庭へのホームステイを行う学生が現れるなど交流が生まれてきた。

「第4回 いわて吹奏楽祭」は、岩手県から初めて全日本吹奏楽コンクール全国大会において金賞を受賞する学校が生まれる一助となった。また、学生だけでなく県内の音楽指導者にとっても、全国レベルの学校の指導者との交流により、岩手県の吹奏楽を支えている指導者たちの成長にもつながっている。

「ざ・CLASSIC 2019」は、オーディションに合格した若手演奏家や、岩手ゆかりのクラシック・アーティストが共演し、アンサンブルを組むことで生まれた“岩手らしい音”を発信することができた。また、特別価格で購入し来場した「岩手県民会館コンサート・サロン」会員が、岩手ゆかりの演奏家のファンになり、県内で行われる演奏会での集客につながっている。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

県からの事業予算措置が無い中、これまで204回を数え、来場者数が約11万人以上を誇るコンサート・サロン事業（昭和49年開始）を筆頭に、質の高い文化芸術公演を企画制作してきた。県民からの要望に応え、大都市で行われる公演と遜色ない鑑賞型事業を提供するとともに、鑑賞型事業で得た収益を組織として育成型事業に投資し、地域の文化振興に寄与している。

近年は複数館での自主事業の連携も積極的に実施しており、平成25年度から平成27年まで「東日本ジャズ・サーキット」と題し、東京エレクトロンホール宮城（宮城県）などと連携し、平成30年度は大船渡市民文化会館で「いわてJAZZ in 大船渡」と題し自主制作公演を実施。同年、ミュージカル「キス・ミー・ケイト」公演を奥州市文化会館・久慈市文化会館・十和田市民センターの3館での実施に係る制作業務を請負うなど、積極的に連携事業を行ってきた。

他にも、舞台「炎立つ」公演では、文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業：劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業」の幹事館として刈谷市総合文化センター（愛知県）、兵庫県立芸術文化センター（兵庫県）とともに共同制作し、公立劇場間の連携を強化し、今後の自主事業運営が円滑に進むように努めている。

また、一般県民が参加できるサポートスタッフ事業を展開し、公演時の場内案内や受付等の自主事業の運営業務を通じてアートマネジメント人材を育成している。

東日本大震災以降は、「心の復興」をテーマに掲げ、主催事業に出演したアーティストを中心に学校や福祉施設を訪問し演奏会を行っている。「震災からの復興に、音楽は何ができるか」を主軸にすえ、釜石市及び大槌町のバイオリンを習う子どもたち、盛岡ジュニアオーケストラ、及び兵庫芸術文化センタースーパーキッズ・オーケストラの次代を担う子どもたちによる共演を実現。自主事業を企画制作する際は、長期的かつ複層的に意義のある事業となりうるよう計画している。

新たに岩手県吹奏楽連盟の協力のもと、岩手県内吹奏楽部と他県吹奏楽部との交流を取り入れた公演を制作するなど、岩手県内外の実演芸術の水準向上を目指している。このように、長期的な視点に基づいた人材育成の取り組みを積極的に実施している。